

変わりゆく英語

柏野健次

1. はじめに

本稿では語法研究の事例研究として、応答に単独で用いられる please と I wish 構文に見られる would を取り上げ、英語語法の変化の実態を報告する。

2. 応答に単独で用いられる please

Webb (1987:121) によると、許可を求められたときに承諾する場合、please は単独では用いられない。

(1) 誤 “May I smoke?” “*Please.*”

ところが、用例をつぶさに観察していくと次のような実例があることに気づく。

(2) “May I sit down?” “*Please.*” (S. Sheldon, *Tell Me Your Dreams*)

この食い違いの原因は何なのだろうか。これを探るためにインフォーマントに当たってみると、あるネイティブ・スピーカーは (3) のような例を添えた上で、(4) のようなコメントを提供してくれた。

(3) “May I sit down?” “*Please (do)*”

(4) You can include “do” if you like, but “Please” by itself is fine, especially as it is often accompanied by a gesture indicating the chair.

ここでは gesture という語が重要であるが、このコメントが的を射たものであることは次のような実例を見ればなお一層、明らかになる。

(5) “*Please,*” she said, and indicated the chair in front of the desk. Kling sat.

(E. McBain, *Lullaby*)

そうすると、ここから結論として、(5) のような場合に使われるジェスチャーは「Please do. の do の肩代わりをしている」と考えられる。この場合、インフォーマントによると、ジェスチャー

は義務的でジェスチャーを伴わないと、以下に示すように逆の意味を表すことになるという。

- (6) “Please” needs to be accompanied by a gesture with the head or the hand (and a smile also), otherwise it might be interpreted as “Please don’t ask me, as I couldn’t agree to let you do it.”

以上のことから分かるように、(1) の Please は、うなずきながらの発言であれば、Webb (1987) の主張とは裏腹に、正しい英語ということになる。

3. I wish 構文に見られる would

I wish 構文では、従属節には通例、動詞の過去形や過去完了形がくる。

- (7) *I wish I knew* how to do that. (S. Sheldon, *Tell Me Your Dreams*)

- (8) *I wish I’d done* it differently. (D. Steel, *Lone Eagle*)

このほか、次の (9) (10) のように従属節に助動詞の would がきて、未来時に言及することがある¹。

- (9) *I wish somebody would* buy me a car. (Murphy & Smalzer (2000:76))

- (10) *I wish you would* listen to me! (“...but you won’t”) (Leech & Svartvik (1994:161))

(9) (10) では、次の Murphy & Smalzer (2000:76) や Ackles (2003:182) の言葉が示すように、話し手は従属節の主語が「...しようとしなない」ので現状に対する不満を示し、「...してくれたらいいのに」というように見込みの薄い願望が述べられている²。

- (11) We use *I wish...would...* when we want something to happen or when we want somebody to do something. The speaker is not happy with the present situation.

- (12) The verb *wish* communicates that the speaker believes the desired situation is not likely to occur.

この would については、Palmer (1974) をはじめ Tregidgo (1984), Thomson & Martinet (1986) それに Swan (1995) に言及があり、彼らはすべて、この would は意思未来 (volition or willingness) を表すと考えている。ということは、裏を返せば、動詞は自制可能な動詞 (self-controllable verbs) でなければならないということである。実際、(9) と (10) の文を Buy me a car., Listen to me. のように命令文に変えても知的意味は変わらないことから、これらの動詞が自制可能な動詞であることが分かる。

ただ、この構文では、次のように、主語に無生物がくることもあり、このケースをどう処理するのがよく問題となる。

(13) *I wish the sun would come out.* (Thomson & Martinet (1986:262))

(14) “*I wish the rain would stop for a moment,*” said Mrs. Macphail. “I could try to make the place comfortable with more heart if the sun were shining.” (S. Maugham, *Rain*)

私見では、(13)と(14)の *would* もやはり意思未来を表していると思われる。ここでも話し手は sun や rain を擬人化した上で「出ようとしなない太陽」や「止もうとしなない雨」に不満を示し、「太陽が出る意思を見せてくれたらいいのに」「雨が止む意思を見せてくれたらいいのに」と言っているのである³。実際、Swan (1995:629) は(14)と類似の次の(15)の例について(16)のように述べ、比喩用法であることを強調している。

(15) *I wish it would stop raining.*

(16) Sometimes we talk as if things and situations could be willing or unwilling, or could insist or refuse to do things.

このような本構文の「*would* は意思未来を表す」という説の根拠としては、これまで以下の2点が提出されている。

1つは、Tregidgo (1984:49) のもので、氏は次の文が非文であることを「*would* は意思未来を表す」ことの根拠とする。

(17) **I wish you would pass your exams.*

ただ、Tregidgo (1984) は主語の *you* が「試験に通ってやらない」と言っている場合には容認可能となるという注釈を加えている。つまり、「あなたに通る意思があればいいのに」という意味では(17)は容認可能ということになる。

いま1つは、Palmer (1974:150) と Swan (1995:629) のものである。Palmer (1974) は(18)のように、*I wish I would* とは言えないことを理由に *would* は単純未来 (futurity) を表さないと主張する。

(18) The improbability of ?*I wish I would* suggests that “will” do not occur in wishes for simple futurity.

また Swan (1995) は(19)のように言うのは自分で自分の意思を願望しているように聞こえ、不

自然とする。

(19) **I wish I would give up smoking.*

しかし、(17) と (18) (19) の 2 つの見解には反論が可能である。(17) については、この文を容認するネイティブ・スピーカーがいるという事実を挙げることができる。あるインフォーマントは (17) は容認可能で、(20) のような意味を表すと言う。

(20) It might be a plea to the child to pass his exams (meaning he usually fails!)

すなわち、(17) は「いい加減、試験に通ってくれたらいいのに」という意味に解釈できるということである。

この (17) で用いられている *pass* は自制不可能な動詞であるが、同じような自制不可能な動詞を用いた以下の例もインフォーマントによると容認可能である。

(21) *I wish you would win the election. We need someone like you in power. The person in that position now is terrible.*

(22) I don't like him. *I wish he would die.*

(23) I'm a Tigers fan. *I wish the Giants would lose today's game.*

上例は、それぞれ「選挙に勝ってくれたらいいのに」「死んでくれたらいいのに」「巨人、負けてくれたらいいのに」という意味を表すが、自制不可能な動詞が用いられている以上、これらの *would* は単純未来を表していることになる。

次に (18) (19) については、*I wish I would win the lottery.* や *I wish I would encounter a UFO.* のような文を認めるネイティブ・スピーカーがいるという事実を挙げて反論することができる。実際、web site には次のような同種の例が見られる。

(24) *I wish I would win a Tony Award someday.*

(25) *I wish I would encounter more people like her.*

ここでは、*win*, *encounter* は自制不可能な動詞であることに注意したい。

このようにして、*I wish I would* の構文も可能であり、その結果、問題の *would* は単純未来と解釈される場合もあるということが判明した。

このほか、次のように、虚辞 (expletive) の *there* や *it* が本構文の *would* の主語になることができるという事実も *would* が単純未来を表すことの証拠となる。

(26) I would love to have peace in the world. *I wish* there *would* be no fighting in the world. (web site)

(27) This weather sucks. *I wish* it *would* be warmer so I wouldn't have to wear a jacket all the time. (web site)

以上から、“I wish S would do” 構文の *would* は多くの場合、意思未来を表すが、単純未来を表す *would* も生起可能になってきていると結論できる⁴。

この結論が妥当性をもつことを立証するために、最後に James (1986:102) から次の一節を引用しておこう⁵。

(28) Far more important is the use of *would* in noun clauses after the word *wish* when time is future, as in the sentence,

I wish the snow *would* melt.

This use apparently develops late and begins in clauses with human subjects, with *would* apparently still signifying intention, but when *would* comes to be used with non-human subjects, as in the example cited, it comes to signify prospectiveness (*i.e.*, futurity), which originally is only implied. (注釈筆者)

(28) の引用から次の 2 点が判明する。1 つは、“I wish S would” 構文は歴史的に見て発生が遅いということであり、今 1 つは I wish 構文の *would* はもともと意思未来を表していたが、単純未来も表すようになったということである。後者は本稿の結論を裏付けるものとなる。ただ、(28) で例に挙げられている *I wish the snow would melt.* の *would* は無生物が主語にきているものの、James (1986) の言うように単純未来を表すのではなく、(13)–(16) で述べたように意思未来を表すという点を再確認しておく。

4. おわりに

本稿では、2 節では応答に単独で用いられる *please* を、3 節では I wish 構文に見られる *would* を取り上げ、語法の変化過程の一端を見た。2 節では単独では応答には用いられないと言われてきた *please* もジェスチャーを伴えば可能となることを述べた。そして 3 節では “I wish S would” 構文の *would* は、もともと意思未来を表していたが、単純未来をも表すようになってきたことを論じた。このような英語の変化に気づくことも語法研究の重要な目的の 1 つである。

注

1 この場合、*would* の後にくる動詞は動作動詞に限られ、状態動詞は通例、用いられないことに注意したい。

(a) **I wish you would be here now.*

cf. *I wish you were here now.* (ともにインフォーマント提供)

- 2 *I wish* 構文のすべてが「見込みの薄い願望」を表すわけではない。例えば Thomson & Martinet (1986:262) に次のような例がある。

(b) Shall I help you check the accounts? -*I wish you would.*

Thomson & Martinet (1986) によると、ここでは *I wish you would* は *I'd be glad of your help* の意味になるという。ということは、この *I wish you would* は「見込みの薄い願望」ではなくて「実現可能な願望」を表していることになる。

これは Graver (1986:93) 流に言うとは、*would* がハイポセティカル (hypothetical) な意味を表しているのか、テンタティブ (tentative) な意味を表しているのかという問題に置き換えることができる。ハイポセティカルとは、この場合、ありそうにない事象を仮定することを意味し、一方、テンタティブとはハイポセティカルの持つ否定の意味合いが消され、単に断定を弱める機能を有することを意味する。本文の (9) (10) の場合には *would* は「見込みの薄い願望」を表しているのであるから、ハイポセティカルな性格を持ち、上の (b) では *would* は「実現可能な願望」を表しているのであるから、テンタティブな性格を持ち、*will* の婉曲語法として用いられているということになる。

そうすると、どういう場合にどちらの意味を表すのかという問題が生じる。一般には、(b) の例のように、「依頼」が示唆される文脈では、*would* はテンタティブな意味を表し、*I wish you would* は *Yes, please do* の意味になると言われている。しかし、ネイティブ・スピーカーのなかには、(b) の *would* をハイポセティカルな意味にとり、*I wish you would* を *I don't expect you will* の意味に解釈する人もいる。前者では丁寧な (polite) 表現となるが、後者では失礼な (impolite) な表現となる。

Leech (1971:117) によると、この *would* はもともとハイポセティカルな意味を表していて、それが弱化してテンタティブな意味が生まれたという。しかし、上のネイティブ・スピーカーの反応を見る限り、この意味の移行はいまだ完了しておらず、*would* のハイポセティカルな意味は依然として色濃く残っていると考えられる。したがって、「依頼の文脈では必ず *would* はテンタティブな意味を表す」とは一概には言えないことになる。

- 3 次の例は擬人化されていることがよく分かる好例である。

(c) I have a boyfriend. I can see him at six o'clock this evening. It is two o'clock now.

I wish 6:00 would hurry up and come. (インフォーマント提供)

- 4 歴史的にも *will/would* は意思未来の意味から単純未来の意味へと発展したが、これは “*I wish S would do*” 構文の *would* の意味変化の過程と一致する。

- 5 次のインフォーマントのコメントも本稿の結論を支持してくれる。

(d) Although “*I wish S would*” must have originally expressed willingness, it is changing its meaning.

参考文献

- Ackles, N. M. 2003. *The Grammar Guide*. The Univ. of Michigan Press.
- Graver, B.D. 1986. *Advanced English Practice*. (3rd ed.) OUP
- James, F. 1986. *Semantics of the English Subjunctive*. Univ. of British Columbia Press.
- Leech, G. 1971. *Meaning and the English Verb*. Longman
- Leech, G. and J. Svartvik. 1994. *A Communicative Grammar of English*. Longman.
- Murphy, R. and W.R. Smalzer. 2000. *Grammar in Use Intermediate*. CUP.
- Palmer, F. 1974. *The English Verb*. Longman.
- Swan, M. 1995. *Practical English Usage*. (2nd ed.) OUP.
- Thomson, A. J. and A. V. Martinet. 1986. *A Practical English Grammar*. (4th ed.) OUP
- Tregidgo, P. S. 1984. "I wish I was dead" *ELT* 38, pp. 48-50
- Uchikiba, T. (内木場努) 1993. 「非現実的願望を表す I wish」衣笠忠司ほか編『英語基礎語彙の文法』英宝社 pp. 75-85 に所収。
- Webb, J. 1987. 『日本人に共通する英語のミス 121』ジャパン・タイムズ。